

市長記者会見記録

日時：2020年12月1日（火）14時00分～14時18分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：【話題提供】

- ・中村憲剛選手へ川崎市市民栄誉賞、川崎フロンターレへ川崎市スポーツ特別賞を贈呈します（市民文化局）
- ・市政一般

<内容>

《中村憲剛選手へ川崎市市民栄誉賞、川崎フロンターレへ川崎市スポーツ特別賞を贈呈します》

【司会】 ただいまから、定例市長記者会見を始めます。

本日は話題提供といたしまして、「中村憲剛選手へ川崎市市民栄誉賞、川崎フロンターレへ川崎市スポーツ特別賞を贈呈します」となっております。

それでは、福田市長から御説明いたします。市長、よろしく願いいたします。

【市長】 先日、11月25日、2020明治安田生命J1リーグにおいて、川崎フロンターレが2年ぶり3回目となるリーグ制覇を成し遂げました。また、18年間、川崎フロンターレで活躍され、同クラブの歴史を築いた中村憲剛選手が今シーズン限りで引退されます。中村選手は、川崎の名を全国に知らしめるとともに、フロンターレを地域クラブへと定着させるなど、地域活動にも積極的に取り組んでくださいました。その功績をたたえ、中村選手に川崎市市民栄誉賞を贈呈いたします。

また、川崎フロンターレが圧倒的な強さでタイトルを獲得したことは、新型コロナの影響で暗い話題が多い中、これまで以上に市民の方々に勇気と元気を与えてくれたものと考えています。この功績と栄誉をたたえ、川崎フロンターレへ川崎市スポーツ特別賞を贈呈いたします。

なお、市民栄誉賞とスポーツ特別賞の贈呈につきましては、川崎フロンターレ主催で12月21日月曜日19時から等々力陸上競技場で行われる「中村憲剛引退セレモニー&優勝報告会」の中で行う予定でおります。

以上です。

《市政一般》

【司会】 それでは、ただいま御説明しました件、並びに市政一般に関する質疑に入

らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いたします。

【幹事社】 幹事社でございます。今回、賞の受賞を決められた中村選手とフロンターレ、それぞれ川崎市にとってどんな存在だと思われますでしょうか。

【市長】 いつも申しておりますけれども、川崎フロンターレは本当に川崎の宝だと思いますし、かけがえのない存在だと思います。中村選手については、18年間一筋にということで、ピッチの中でも大活躍していただきましたし、それから、ピッチ外においても、地域貢献という意味で、若手選手、次々、新しい選手が入ってくる中、その人たちの模範となるような地域貢献を率先してやっていただいたと思っています。改めて、そういったことに感謝申し上げたいなと思います。

【幹事社】 フロンターレについては、これから、今回、優勝という非常に大きな、記録を成し遂げましたけれども、今後についてフロンターレに期待するところ……。

【市長】 シーズン、まだ続いていますし、それから、もう一つ、天皇杯、ここでの優勝というのをぜひ期待したいなと思っています。いいお正月をみんなで迎えられようように願っています。

《市民ミュージアムの今後のあり方について》

【幹事社】 ありがとうございます。もう1点、市政関連についてなんですけれども、先月、市民ミュージアムのあり方検討部会が、市民ミュージアムの同じ場所での再開は難しいということでの意見が出ていますけれども、先日の市長会見の際にはまだ報告が届いていなかったということで、その報告を読まれて、改めて市長のお考えをお聞きしたいんですけれども。

【市長】 今後どういう形で、どういうミュージアムの在り方というものがいいのか、あるいは、施設がどういうものがいいのかということ、有識者の意見というのはまだ引き続きありますので、そのことを踏まえて検討していきたいと思っています。

【幹事社】 市民ミュージアムの存続に関する考え方は、市長も存続すべきであるというようなお考えは今も変わりはないのでしょうか。

【市長】 そうです。市民の重要な大切な財産ですから、どういう形でもう一回皆さんに見ていただくかというのを考えていくのは当然だと思いますので。ただ、単純に、今あることを再建するということではもちろんないと思っていますので、そのことについても、また有識者の皆さんほか、いろんな方々の御意見を伺っていきたくと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。

《中村憲剛選手へ川崎市市民栄誉賞、川崎フロンターレへ川崎市スポーツ特別賞を贈

呈します》

【幹事社】 こんにちは。まず、栄誉賞とスポーツ特別賞について伺いたいですけど、市民栄誉賞は3人目ということになるかと思えますけれども、スポーツ特別賞は、これまで市で授与された例は……。

【市長】 スポーツ特別賞は、36団体、過去にいらっしゃいまして、19団体、17個人がこれまで受賞されています。この中には、当然フロンターレも何度か、複数回含まれております。フロンターレでいきますと、平成29年と平成30年、それから今回ということで、2年ぶり三度目の受賞になります。いずれもJ1で優勝したときにフロンターレには贈呈させていただいています。

《新型コロナウイルス感染症対策について》

【幹事社】 あと、コロナについてなんですけれども、最近、やはり川崎でも感染者が増えている状況だと思うんですが、東京は重症者の率が高くなって話題になっていると思うんですけれども、市内の感染状況についての、まず受け止めに教えてください。

【市長】 前週というか、11月29日までの1週間とその前の週を比べると、新規陽性者数は、若干ですが、下がっておりますし、陽性率も下がっている状況にあります。一方で、入院患者さんですとか、あるいは全体の療養者と言われている方は増えていますので、そういった意味で非常に緊張感を持って見ているのが現状だと思います。

【幹事社】 病床数がやはりちょっと気になるんですけれども、市内の病床の状況については、今のところ、あるいは今後、このペースで続いた場合の見通しはいかがでしょうか。

【市長】 現在、医療アラートが発出されてから70床から126床まで増やしていますし、それに対する現時点での入院者は65名となっていますので、現在、言葉で言うと、逼迫（ひっぱく）しているということではありませんけれども、ただ、申し上げたとおり、陽性率が下がっていても入院される方の数は増えていますので、この状態が続きますと、やや危機的な、非常に厳しい状況になっていくという意味では、この状態が続いていくと仮定すれば、それは逼迫するようなことにもなり得ると思えますけれども、現時点では逼迫しているという状況ではないとは思っています。

【幹事社】 このままいくと逼迫ということですが、大体このままのペースでいくとすると、どれくらいで逼迫するという……。

【市長】 それは、前の週から今週にかけて陽性率が下がっていますので、この辺り

はもう少し推移を見守る必要があると思います。何十名とかというのは、正直、数日先はどうなるかは見通せない状況ですので、注意深く見守っていかなくちゃいけないのと、そのトレンドをしっかりと見ていきたいと思っています。

【幹事社】 あと、ほかの自治体で、県とか都とかのところで時間短縮要請みたいなものが出ているところもあると思うんですけども、県は今のところ、そういう動きはないようですが、市独自に感染抑止のために、時間短縮なり、何か呼びかけとか対応を取るような予定はありますでしょうか。

【市長】 現時点で、時短だとかそういうことを市独自でということ、行動制限に係るというのは県知事の判断になるかと思いますが、そのようなことを考えてはおりません。

【幹事社】 ありがとうございます。

じゃ、各社さん、どうぞ。

《市内公園の差別的な落書き被害事案について》

【幹事社】 市内の公園で在日コリアンをおとしめる差別落書きが大量に見つかるということが起きておりますけれども、そのことについて受け止めて教えてください。

【市長】 大変残念なことでありますし、本当に遺憾なことだと思っています。こういうことは決してあってはならないことだと思っておりますし、これからそういうことがないようにということをお願いしています。

【幹事社】 今、遺憾で決してあってはならないというお言葉でしたけれども、これが差別であると、したがって、許されないことなんだという御認識ということによろしいでしょうか。

【市長】 不適切な表現が公共のものに書かれているということは、繰り返しになりますけれども、あってはならないことだと思っております。

《中村憲剛選手へ川崎市市民栄誉賞、川崎フロンターレへ川崎市スポーツ特別賞を贈呈します》

【記者】 今回、フロンターレの憲剛選手の引退表明の後の1か月、なかなかチームとしては勝負がつかなくて大変だなという、ちょっと足踏みの時期もあったかと思うんですけども、改めて今年の試合を振り返って、どういう印象を持たれたか、もう少し伺えますか。

【市長】 この段階での話を申し上げれば、もう本当に圧倒的に強かった、もう本当に負けがなかったので、すごかったなと思いますけれども、特に若手の活躍が非常に目立った一年だったんじゃないかなと思っています。三笥選手、旗手選手、田中碧選

手というような、そういった若手の台頭もすばらしかったと思いますし、それがベテラン陣とうまくかみ合ったと思います。川崎のユースから上がってきた選手が活躍されて、本当に地元で育った人たちがピッチ上で活躍して、それをまた地元の人たちが応援するという、Ｊリーグの目指す姿を川崎フロンターレがまず最初に体現しているのではないかなと思っています。そういった意味で、試合に勝つことの喜びと地元から育った選手が勝ち続けていくという姿、ダブルの意味でうれしかったですね。

【記者】 もう一つ、今回、市民栄誉賞ということで、過去の受賞者も、成田さん、藤嶋先生と、そういう意味ではとても功績を残された方たちですけれども、改めて決め手というか、どういう過程があって、今回の栄誉賞の受賞が決まったか伺えますでしょうか。

【市長】 誰もが認めることだと思いますが、先ほどの受賞理由でお話ししたとおり、川崎の名を全国にこのように知らしめてくれた、そして、スポーツ、サッカーというツールで人々を幸せにするということをこれだけ体現してきた方はいらっしゃるんじゃないかと思います。それから、ピッチの外でも、清掃活動を自ら率先して行ったり、児童虐待の取組というのも積極的に取り組んでいただいたり、本当に何とか地域とサッカーというものを結びつけようとして、サッカーでもって川崎を盛り上げようということに徹底して尽くされた方だと思います。ですから、私が思うに、これ以上、市民栄誉賞にふさわしい方はちょっといないだろうと思っています。

《新型コロナウイルス感染症対策について》

【記者】 ありがとうございます。もう一つ、コロナの関係ですけれども、政令市独自に時短要請というのはなかなか例は多くないと思うんですけれども、仮にそういうような状況になるという想定も、感染者の推移によっては考え得る選択肢なんではないでしょうか。

【市長】 今後、知事と意見を交わしていかなくちゃいけないんじゃないかということは思っていますが、正直、時短がふさわしいのか、何がふさわしいのかというのは、科学的にどうなんだろうというのはなかなか分からない部分もありますので、そこは専門家の方たちの意見も聞きながら、知事ともお話ししなくちゃいけないんじゃないかと思いますが。

【記者】 このところ、大臣とか政治家の方たちが横浜と川崎の感染状況も、感染というか、病床の状況も含めて、難しいんだというような話、発言などがちょっとドキッとしてしまう部分もあると思うんですけれども、御認識としては、先ほど言われたような、少し陽性率も落ち着いてきている、けれども、依然……。

【市長】 予断を許さない感じだと思いますね。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例関連について》

【記者】 ヘイトスピーチの関連で言うと、ヘイトスピーチの差別禁止条例の成立からちょうど12日で1年になると思うんですけども、改めてこの1年を振り返って、状況というか、振り返ってみていかがですか。

【市長】 まず1年間、しっかりと条例を適切に運用していこうということで取り組んでまいりました。それについて様々な御意見があることは承知していますが、これからはしっかりと運用していきたいと思っておりますし、この条例が差別のない社会への一歩にどんどん近づいていけばいいなとは思っています。

《川崎港の放置船について新型コロナウイルス感染症関連について》

【記者】 実は長らく問題になっていた放置船、千鳥町の船についてなんですけれども、そもそも市長、今までどういうふうに見守っていらっしやったんでしょうか、あの状況について。

【市長】 状況があることはずっと承知しておりますし、担当局が粘り強く交渉していると承知しています。

【記者】 粘り強く交渉とはいえ、もう2年たっちゃっているわけですけども、今後どのように市長も働きかけていったり、市としてやっていくという方針はありますか。

【市長】 引き続いてしっかり取り組んでいくことです。

【記者】 今、実際、相手方とは接触できていて、交渉というのはできているんでしょうか。1回、かつて合意に近づいたということも伺ったんですけども、今、結局、離れ離れになっているという状況だと聞いておまして、その後、接触できているかどうか。

【市長】 現在の状況は、私、まだ今日の時点で把握していません、最近の。確認したいと思っております。

【記者】 行く行くは行政代執行も考えなきゃいけないような状況と伺ったんですけども。

【市長】 まだそれを判断する状況にはないと思っております。

【記者】 分かりました。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了とさせていただきます。ありがとう

うございました。

【市長】 ありがとうございます。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355